

保健医療分野における AI 研究開発加速に向けた人材養成産学協働プログラム 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連 携 大 校 名)	名古屋大学 (岐阜大学、名古屋工業大学、名城大学) 計4大学
事 業 名	メディカル AI 人材養成産学協働拠点 (AcademiAIndustry collaboration platform for cultivating Medical AI Leaders, AI-MAILs)
事 業 責 任 者	副総長 大野 欽司
事 業 の 概 要	
<p>東海国立大学機構の発足を皮切りに名古屋大学医学系研究科は保健学科改組、医療健康データ統合研究教育拠点・MIU 設置などの組織改革を断行し、情報学を研究教育の中心に置く戦略に大きく舵を切ってきた。本プログラムは、連携4大学と理化学研究所が行ってきたデータサイエンス教育を基盤とし AI 教育に主眼をおいたスタンダードコース、①ゲノム医療、②画像診断支援、③診断・治療支援、④医薬品開発、⑤介護・認知症、⑥手術支援の重点6領域に⑦医療業務支援を加えた重点7領域において、現在22社と進めている AI 共同研究開発を OJT の場として活用し主体的に産学官連携 AI 開発を学ぶインテンシブ OJT コース、デザイン思考で患者・医療ニーズを探求するニーズドリブン AI 構築/アントレプレナーシップコースを設置する。現場ニーズに基づく AI 開発を産学官連携に展開し実臨床に活用できる AI 医療を構築できる人材育成を目指す。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○スタンダードコースでの基礎のみの習得も可能であり、またその上に OJT として実企業体と協働した各領域の設置及びデザイン思考の学修を目的としたコースが設置されていることは、受講者が目的とするレベルや方向に合致して選択できるという点で評価できる。</p> <p>○ニーズドリブン AI モデル開発を行うことができる人材育成を目標に掲げて、スタンダードコースでは、医療従事者の AI 研究者との密なコミュニケーションを可能にするよう工夫がされている点、また研究公正・生命倫理・情報セキュリティ等にも加えた教育カリキュラムになっている点、インテンシブ OJT コースとニーズドリブン AI 構築/アントレプレナーシップコースも加えて医療 AI モデル開発 (AI 医療機器等) を目的とし発展させたデザイン思考型プログラムになっている点等、高く評価できる。</p> <p>○それぞれの領域ごとに当該領域に取り組む企業が選定され、その企業との共同研究に参画できることは、すぐに現場に生きる実践であり、効果が期待できる。</p> <p>○共同研究費、知財収入に加え、研究用データを収益源とし、事業継続性が期待できる。</p> <p>●オンライン講義・オンデマンド配信等の実施も考慮に入れているが、本事業計画の教育モデルの普及に関して東海地方に限定されてしまう可能性も否定できないので、何らかの改善が望まれる。</p> <p>●スタンダードコースを必須としていることは基礎能力の取得として有効と考えるが、他コースの同時受講を可能としていることから、有効に機能するように期待したい。</p> <p>●外部評価委員会が設けられているもののメンバーは3人しかおらず、外部評価委員会として十分に機能するのかどうか不透明。</p> <p>●相補関係にある卓越大学院のカリキュラムと本事業の役割分担等、定期的な見直し等を行い、最適な運用を期待したい。</p>	